



令和4年9月1日
富士市立須津小学校
学校だより（9月号）

互いを認め合う心

校長 望月 秀一

34日間の夏休みが終わり、子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。今年は新型コロナウイルスによる行動制限がない中で、感染対策をしながら、家族で楽しく過ごすことができたこと、多くの子どもたちが笑顔で話してくれました。家族と一緒に取り組んだ経験が、子どもたちの成長につながっていくと思います。ありがとうございます。夏休み明けの現在も、コロナの感染状況は続いているので、今後も引き続き感染対策へのご理解とご協力をお願いいたします。

今年も8月6日に広島で原子爆弾により亡くなられた方々に対して、平和記念式典が行われました。その中で、小学生による平和へのメッセージが私の心に響きました。

「自分が優位に立ち、自分の考えを押し通すことは、それは、強さとは言えません。本当の強さとは、違いを認め、相手を受け入れることや、思いやりの心を持ち、相手を理解しようとすることです。本当の強さをもてば、戦争は起こらないはずです。」

私たちは、お互いを認め、尊重し合う中で、生活が成り立っています。お互いに支え合い、持ちつ持たれつの中で生きています。自分の考えを押し通すだけでは、相手に理解を得ることはできないと思います。様々な考え方がある中で、違いを認め、相手がどんな考えをもっているのか、受け入れること、寄り添うことが大切だと思います。このメッセージの思いは、須津地区が掲げる**「自然を愛し、こころ豊かで、人にやさしく安心して暮らせるふるさと須津」**と同じであると思います。



この話を子どもたちへも、夏休み明けの朝礼で話をしました。子どもたちが、互いのよさを認め合いながら、楽しく学校生活を送れるよう支援していきます。

この夏は、猛暑の日々が続いたかと思えば、急に激しい雨が降るなど、不安定な天気が続きました。その影響からか、例年になく雑草が伸びてしまいました。そのような中で、地域の方が学校を大切に思って、朝早くから草取りをしてくださり大変助かりました。学校でやりきれないところを支えていただきありがとうございました。また、児童クラブの子どもたちも遊具の近くにある雑草を抜いてくれたことを聞きました。学校を大事にする気持ちが嬉しいです。8月26日より学校が始まり、子どもたちの登校時に地域の方が、横断歩道で車を止めて、笑顔で渡るよう合図をしてくださる姿にとっても心が温かくなり、感謝の気持ちでいっぱいです。

学校は、地域の皆様に支えられて、教育活動が成り立っていると実感しています。本当にありがとうございます。

今月は、5年生が16日にみどりの学校、6年生が29・30日に東京方面へ修学旅行を計画しています。この二つの行事は、子どもたちが特に楽しみにしているものです。修学旅行は、6年間で一番の思い出になり、学びの集大成としての活動でもあります。無事に取り組むことができるよう、全校で応援し、支えていこうと話しました。今後も、教育活動をすすめていけるよう、校内でも感染対策をしながら取り組んでいきます。